

江東区スポーツ推進計画 (令和7年度～11年度) 素案

令和6年12月

江東区

区長挨拶文を掲載予定

目次

第1章 計画の概要	1
1. 計画策定の考え方	3
2. 計画策定の社会的背景	3
3. 本計画の位置づけ	4
4. 計画期間	4
第2章 スポーツをとりまく現状と課題	5
1. スポーツをとりまく国・東京都の動向	7
(1) 国の動向	7
(2) 東京都の動向	8
2. スポーツをとりまく区の動向	9
(1) 人口推移と将来人口推計	9
(2) 江東区長期計画（令和2年度～11年度）	10
3. 区内の公立スポーツ施設	11
4. 区民のスポーツ活動の実態	12
(1) 成人のスポーツ活動について	12
(2) こどものスポーツ活動について	16
(3) 区内のスポーツ関係団体等の活動について	18
5. 区のスポーツを取り巻く課題と対応	19
第3章 具体的な施策展開	21
1. 基本理念	23
2. 基本目標	24
3. 数値目標	25
4. 本計画におけるスポーツの定義	25
5. 施策の体系	26
基本目標1. スポーツをする機会の創出	28
基本目標2. スポーツをする環境の充実	32
基本目標3. スポーツをみる楽しさの発信	35
基本目標4. スポーツをささえる人材・団体の活躍促進	38

第4章 計画の推進にあたって 41

- 1. 計画の進行管理 43
- 2. 計画の推進体制 43
 - (1) 区民 43
 - (2) 江東区 43
 - (3) 指定管理者（スポーツ施設） 44
 - (4) 公益財団法人江東区健康スポーツ公社 44
 - (5) 江東区スポーツ協会 44
 - (6) 江東区スポーツ推進委員会 44
 - (7) 地域スポーツクラブ 44
 - (8) トップスポーツチーム、トップアスリート 44

第5章 参考資料 45

- 1. スポーツ推進に関する各種調査結果 47

第1章 計画の概要

1. 計画策定の考え方

江東区では平成 27 年 3 月に「江東区スポーツ推進計画」を策定し、区民の誰もが、いつでも、どこでも、いつまでも気軽にスポーツに親しめる環境整備に取り組んできました。

また、令和 2 年 3 月には新たな「江東区スポーツ推進計画（第 2 期）」を策定し、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会（以下、「東京 2020 大会」という）のレガシーを活用しながら、伝統的に受け継がれてきた下町人情や発展を続ける臨海部など、区の魅力・強みを生かしたスポーツ施策を推進してきました。

そして、この度、令和 4 年 3 月に国が策定した「第 3 期スポーツ基本計画」や「東京都スポーツ推進総合計画」、「江東区長期計画」の考え方などを踏まえ、前計画の取り組みを継承しつつ、区民スポーツのさらなる普及振興を図るため、「江東区スポーツ推進計画（第 3 期）」を策定しました。

2. 計画策定の社会的背景

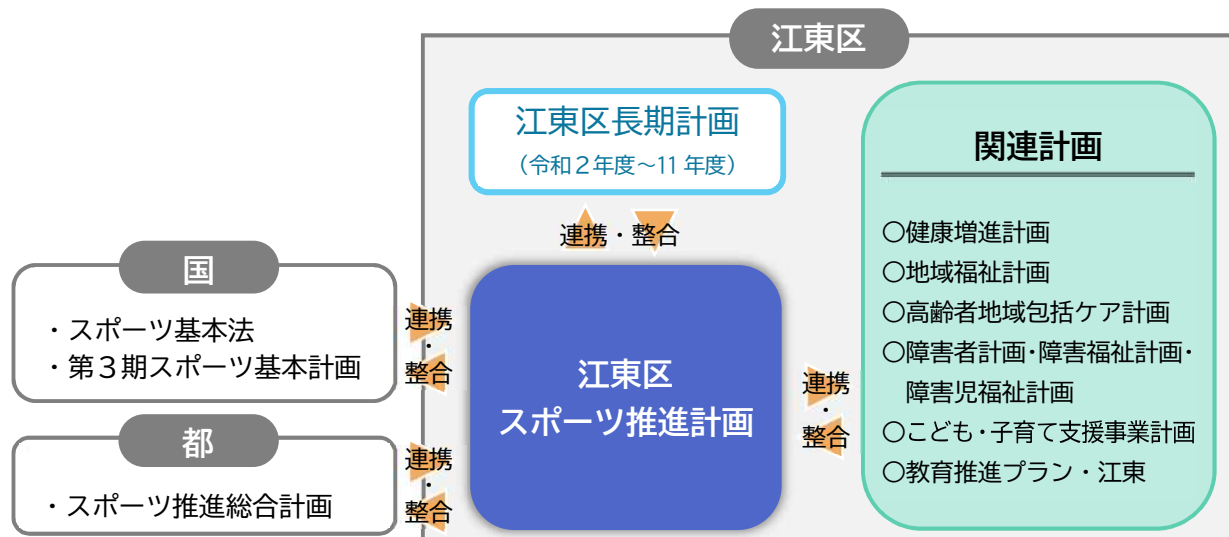
スポーツには、体を動かすという人間の本質的な欲求を満たすことで、体力の向上、ストレスの発散、健康の維持・増進など、心身両面にわたる健康の保持と向上が期待されます。加えて、チームによる活動や仲間づくり、応援やサポートを通じて心を育み、生活や地域社会を豊かにする力も持っています。また、障害者スポーツについても、共生社会の実現に向けた重要な手段として位置づけられています。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症の流行は、スポーツを取り巻く環境に大きな変化をもたらしました。練習や大会の中止に加え、仲間と集う機会も制限され、スポーツに親しむ機会が一気に失われることとなりました。新たな生活様式にあわせてスポーツの在り方を模索する中で、令和 3 年に開催された東京 2020 大会では、残念ながら無観客開催となりましたが、世界中から集まったトップアスリートが日本全体に感動を与え、スポーツの意義を再認識する機会となりました。

今後開催が予定されている、東京 2025 世界陸上や東京 2025 デフリンピック大会などのメガ・スポーツイベントに向けて、スポーツに対する関心がさらに高まっている中、社会環境の変化や価値観の多様化により新しいスポーツの楽しみ方も広がりつつあり、スポーツを取り巻く状況は大きな変革を迎えています。

3. 本計画の位置づけ

本計画は、上位計画である「江東区長期計画」の下、関連計画や国、都との整合を図ったうえで、区のスポーツに係る基本計画として策定します。



4. 計画期間

本計画の計画期間は令和7年度から令和11年度までの5年間とします。

	令和2 (2020)	令和3 (2021)	令和4 (2022)	令和5 (2023)	令和6 (2024)	令和7 (2025)	令和8 (2026)	令和9 (2027)	令和10 (2028)	令和11 (2029)
江東区長期計画	10年間									
江東区スポーツ推進計画	第2期					第3期（本計画）				

第2章 スポーツをとりまく現状と課題

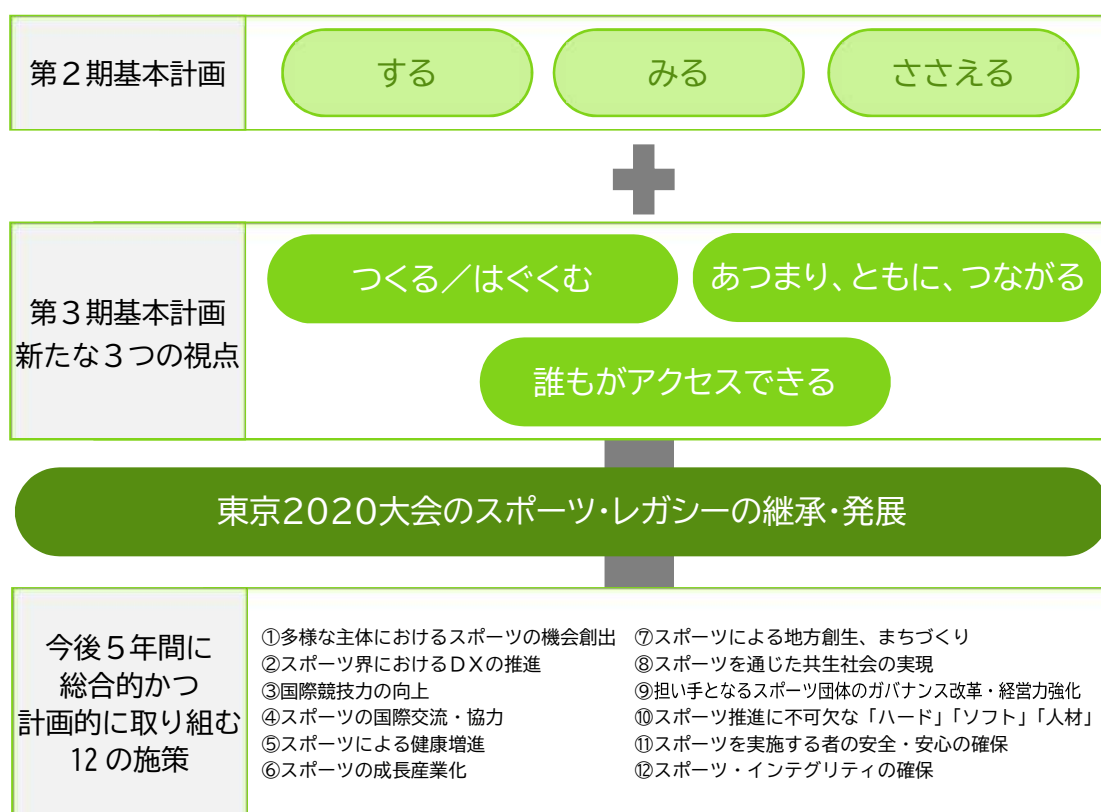
1. スポーツをとりまく国・東京都の動向

(1) 国の動向

国では、令和4年3月に「第3期スポーツ基本計画」が策定されました。第2期計画の「中長期的なスポーツ政策の基本方針」を踏襲しつつ、スポーツを「する」、「みる」、「ささえる」ことを真に実現できる社会を目指すため、「つくる／はぐくむ」、「あつまり、ともに、つながる」、「誰もがアクセスできる」という3つの新たな視点を加えるとともに、東京2020大会のスポーツ・レガシーの継承・発展に向けた総合的かつ計画的に取り組む12の施策が示されています。

また、同計画の中ではスポーツ実施率について、成人の週1回以上のスポーツ実施率が70%程度、障害者は40%程度を目指すことを目標に掲げています。

国の第3期スポーツ基本計画の全体像



出典：スポーツ庁「第3期スポーツ基本計画」より作成

(2) 東京都の動向

東京都では、本計画と同じく令和7年3月に「(次期)東京都スポーツ推進総合計画」が策定されました。

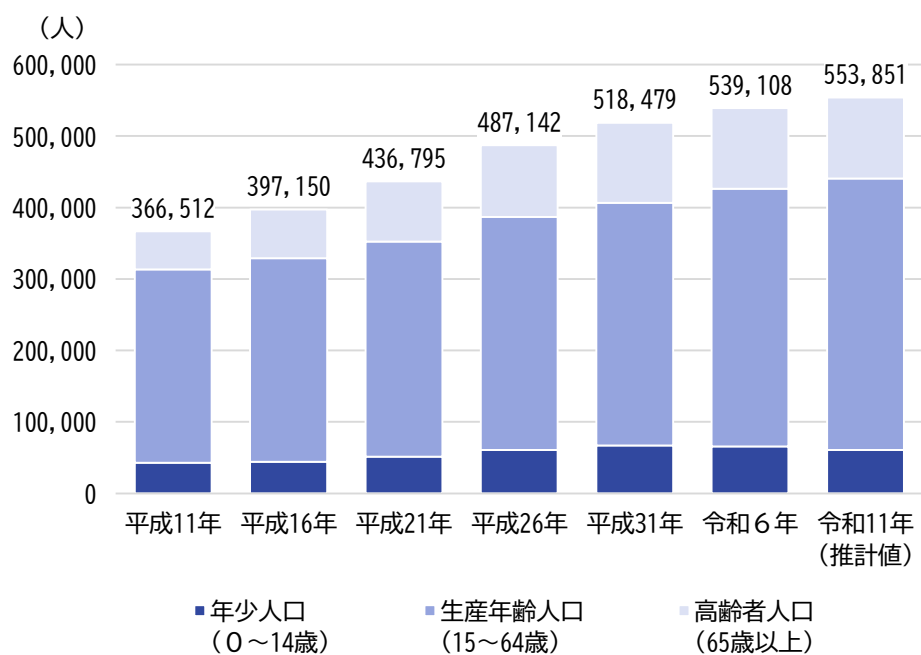
スポーツを取り巻く環境変化やスポーツの意義・価値を捉え、「誰もがスポーツを『楽しむ』東京を実現し、一人ひとりのウェルビーイング(※)を高め、社会を変革する」を基本理念とし、将来目指す「世界に誇るスポーツフィールド・東京」の姿を4つのビジョンとして設定しています。また、政策の柱として「スポーツで輝く」、「スポーツでつながる」、「スポーツでにぎわう」、「スポーツを支える」が示されており、都民一人ひとりのウェルビーイングの向上と、社会全体の幸福度の最大化を実現することを目指す計画となっています。

(※) ウェルビーイング：単に病気・病弱でないだけでなく、身体的、精神的、社会的にも満たされた状態にあること

2. スポーツをとりまく区の動向

(1) 人口推移と将来人口推計

江東区の人口は増加傾向にあり、この 25 年間で約 17 万人の人口が増えています。今後も人口増加は継続し、令和 11 年の将来推計人口は 55 万人を超えることが見込まれています。



出典：住民基本台帳人口（各年1月1日現在）※令和6年まで
江東区長期計画 ※令和11年

(2) 江東区長期計画（令和2年度～11年度）

江東区長期計画とは、区のまちづくりと区政運営の具体的指針となるものであり、この計画に基づいて様々な施策を推進しています。同計画の中で、区のスポーツ振興に関する施策の方向性を定めています。

個性を尊重し、活かしあう地域社会づくり 「施策 14 スポーツを楽しめる環境の充実」

【目指す姿】

こどもから高齢者まで世代や障害の有無にかかわらず、身近にスポーツを楽しめる機会と環境が確保され、スポーツの持つ力により、誰もが生き生きと暮らせる地域社会が形成されています。

〔取組方針〕

1. 区民のスポーツ活動の促進

- こどもから高齢者まで世代や障害の有無にかかわらず、区民がスポーツ活動を楽しめるよう、スポーツイベントやスポーツ教室の開催など、スポーツに親しむきっかけづくりを推進します。
- 障害者スポーツに対する理解促進を図り、障害者のスポーツ活動を促進します。
- スポーツ団体との連携を図るとともに、区民がスポーツ観戦等スポーツと多様な関わりができるよう、取り組みます。
- ソフト面における東京 2020 オリンピック・パラリンピックのレガシーを活用し、区民のスポーツに対する意識向上を図ります。

2. スポーツのしやすい環境の整備

- 区立スポーツ施設や設備の充実、利便性の向上を図り、誰もがスポーツをしやすい環境整備に取り組みます。
- ハード面のレガシーである東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技会場等の都立スポーツ施設等と連携するとともに、各施設の有効活用を図ります。

3. 区内の公立スポーツ施設

作成中

4. 区民のスポーツ活動の実態

(1) 成人のスポーツ活動について

I. アンケート実施概要

■区民アンケート

調査対象	区内在住の18歳以上の男女2,500名（無作為抽出）
調査期間	令和6年6月12日～7月12日
調査方法	郵送による配布、郵送および電子回答
周 知	区報（6月11日号）・区ホームページにて周知
回 収 数	880票（うちオンライン回答：422票）、35.2%
調査項目	・スポーツ実施状況について ・今後やりたいスポーツ・運動について ・地域スポーツ振興について ・パラスポーツ（障害者スポーツ）について ・スポーツ・運動に関するボランティアについて ・スポーツ・運動に関する情報について ・トップスポーツチーム連携協定団体について ・学校部活動の地域移行について ・今後のスポーツ振興・推進に向けて

■障害のある方のアンケート

調査対象	区内在住の障害のある18歳以上の男女（挙手制）
調査期間	令和6年6月12日～7月12日
調査方法	電子回答（LoGo フォーム）
周 知	区報（6月11日号）・区ホームページでの周知に加え、区内障害者通所支援施設・障害者施策課窓口にて周知チラシ配布
回 収 数	125票
調査項目	・障害のある方のスポーツ実施状況について ・障害のある方の今後やりたいスポーツ・運動について

Ⅱ. アンケート結果(抜粋)

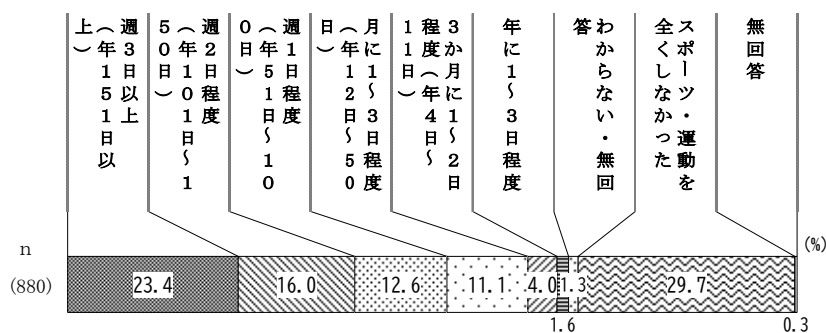
①区民のスポーツ実施率について【「する」スポーツ】

令和6年度に実施した「スポーツ推進に関するアンケート調査」において、運動不足を感じている（「どちらかといえば運動不足を感じている」もしくは「運動不足を感じている」）と回答した区民の割合は7割を超えています。

また、成人の週1日以上スポーツ実施率は52.0%となっており、令和元年度の調査（43.5%）より8.5ポイント増加しました。一方で、「スポーツ・運動を全くしなかった」と回答した区民の割合は全体の約3割となっています。

性・年齢別に週1日以上スポーツ実施率をみると、男女とも全体では5割を超えており、男性10～20歳代、70～79歳、女性70歳以上で6割を超えています。一方、男女とも30～40歳代でスポーツ実施率が低く、特に女性30歳代では3割未満となっています。

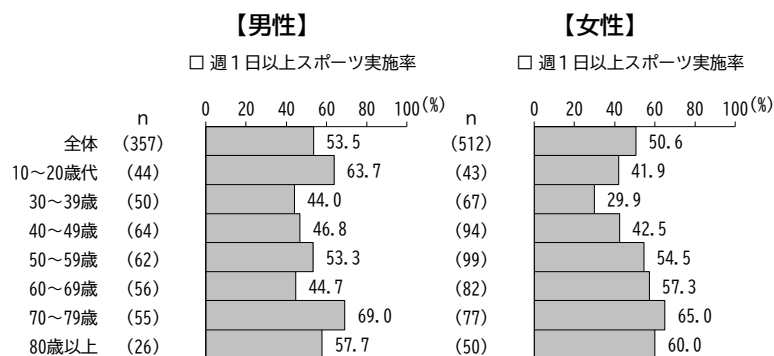
スポーツ・運動の実施頻度



参考

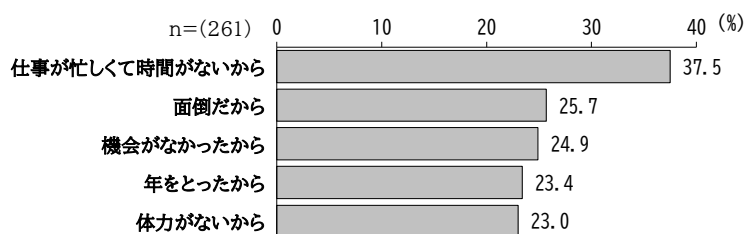
国 : 52.0% ※20歳以上（スポーツ庁「令和5年度 スポーツの実施状況等に関する世論調査」）
東京都 : 66.3% ※18歳以上（東京都「令和5年度 都民のスポーツ活動に関する実態調査」）

スポーツ・運動の実施頻度(性・年齢別)



スポーツ・運動をしなかった理由は、「仕事が忙しくて時間がないから」が37.5%と最も多く、次いで「面倒だから」が25.7%、「機会がなかったから」が24.9%となっています。

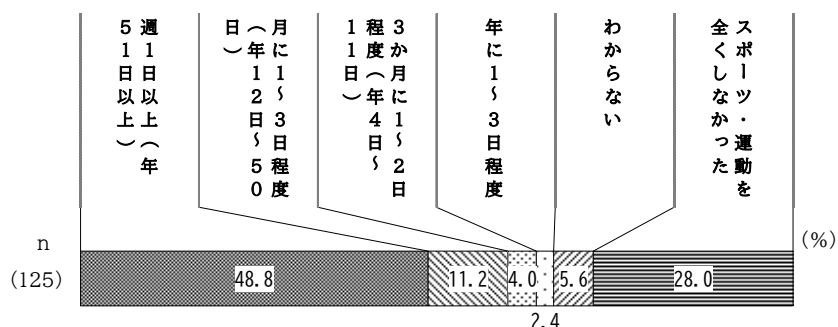
スポーツ・運動をしなかった理由(上位5項目)



②障害者のスポーツ実施率について【「する」スポーツ】

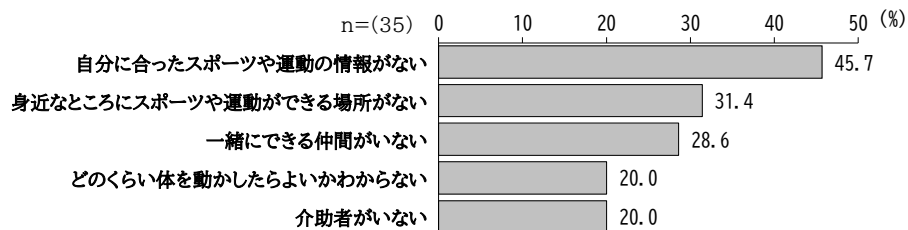
障害者の週1日以上スポーツ実施率は48.8%となっている一方で、「スポーツ・運動を全くしなかった」は28.0%となっています。

スポーツ・運動の実施頻度



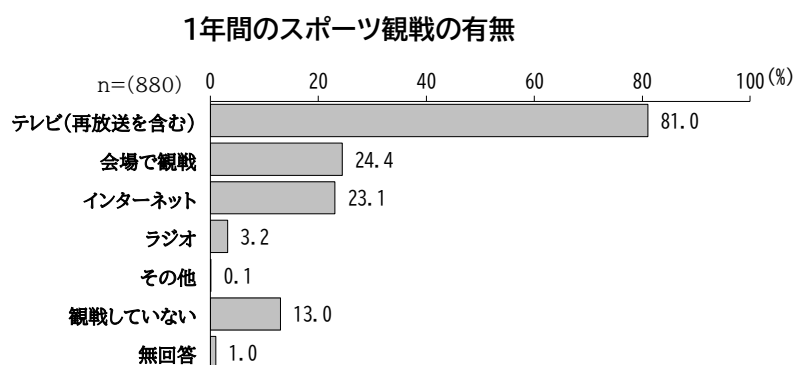
スポーツ・運動をしなかった理由は、「自分に合ったスポーツや運動の情報がない」が45.7%と最も多く、次いで「身近なところにスポーツや運動ができる場所がない」が31.4%、「一緒にできる仲間がいない」が28.6%となっています。

スポーツ・運動をしなかった理由(上位5項目)



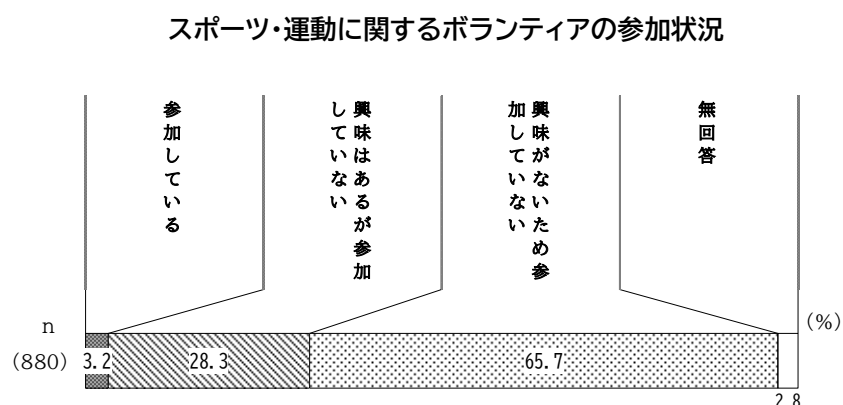
③スポーツの観戦状況について【「みる」スポーツ】

この1年間で、何かしらの形でスポーツを「みた」と回答した割合は 86.0%となっています。そのうち、「テレビ（再放送を含む）」が 81.0%と最も多く、次いで「会場で観戦」が 24.4%となっています。



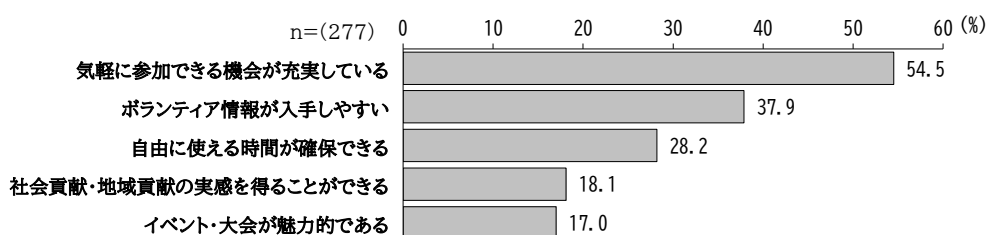
④スポーツ・運動に関するボランティアについて【「ささえる」スポーツ】

スポーツ・運動に関するボランティアに関心がある（「参加している」もしくは「興味はあるが参加していない」）と回答した区民の割合は 31.5%となっています。



ボランティアに関心があると回答した人に、ボランティアをするために重要なことを聞いたところ、「気軽に参加できる機会が充実している」が 54.5%と最も多く、次いで「ボランティア情報が入手しやすい」が 37.9%となっています。

スポーツ・運動に関するボランティアをするために重要なこと(上位5項目)



(2) こどものスポーツ活動について

①こどもの体力・運動能力

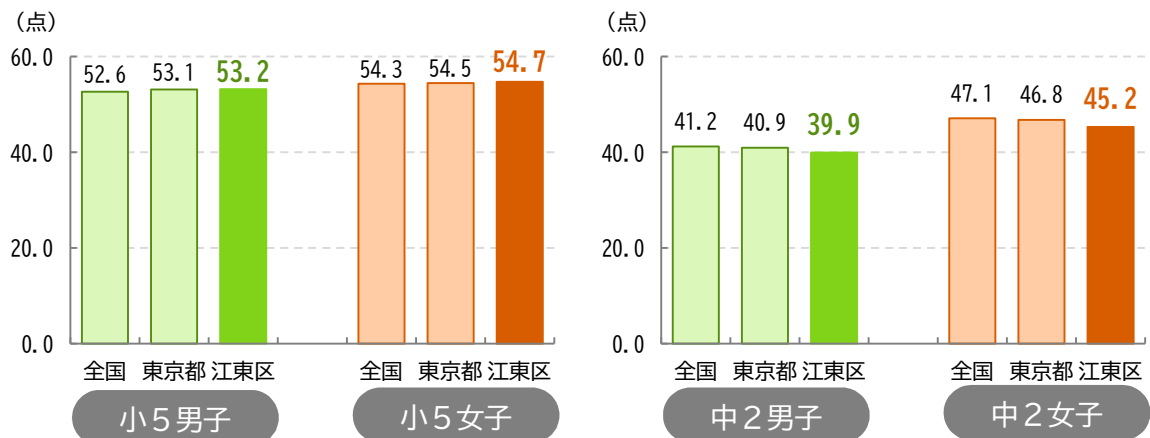
こどもの体力・運動能力の現状把握を目的に、国では「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」、東京都教育委員会では「東京都統一体力テスト」を実施しています。

令和5年度の体力合計点(※)をみると、江東区の小学校5年生は男女とも全国および東京都と同水準となっています。一方で、中学校2年生は男女とも全国および東京都よりもやや低くなっています。

また、運動やスポーツをすることが好き(「好き」または「やや好き」の合計)と回答した割合は、小学校5年生男子は全国および東京都と同水準となっていますが、小学校5年生女子、中学校2年生男子はやや高く、中学校2年生女子はやや低くなっています。

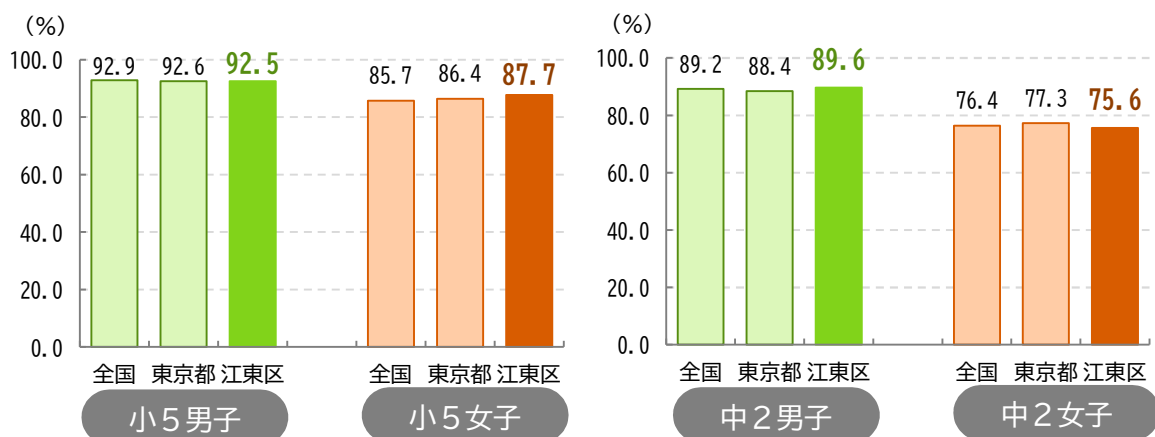
(※) 体力合計点：50m走や上体起こしなど、実技テスト項目(8種目)における得点の合計

体力合計点の平均点



出典：スポーツ庁「令和5年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査」
東京都教育委員会「令和5年度 東京都統一体力テスト」

運動やスポーツをすることが好き(「好き」または「やや好き」と回答した割合の合計)



出典：スポーツ庁「令和5年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査」
東京都教育委員会「令和5年度 東京都統一体力テスト」

②こどもへのアンケート調査結果

令和6年5月、区内在住の小・中学生を対象としたアンケート調査を実施しました。

調査対象	区内在住の小・中学生
調査期間	令和6年5月18日～5月31日
調査方法	こどもまつり、各スポーツセンターにて配布
回収数	851票
調査項目	スポーツに関する自由意見

【スポーツに関する自由意見(抜粋)】

■スポーツをする場所について

- ・遊具を増やしてほしい
- ・ドッジボールの出来る児童館とかが近くに出来れば良いと思う
- ・ボールを使える公園が増えて欲しい
- ・色々なスポーツができる場所ができてほしい
- ・キックボード・ブレイブボードができる場所を作って欲しい

■スポーツに触れる機会について

- ・学校でもっとスポーツ・運動をする時間が増えてほしい
- ・こどもが無料で野球などを見られる機会を作って欲しい
- ・トップスポーツ選手を呼んでなにかして欲しい
- ・小学生・こども向け講座を増やして欲しい

■その他

- ・皆が仲良くルールを守れば、もっとスポーツが楽しくなると思う
- ・ドッジボールを「やりたい」と言ったら、男子に「女子にボールが投げられるかな」と笑われて悲しかった。そういったことを無くしたい
- ・何かとコラボすれば、みんながもっとスポーツを好きになると思う



▲こどもまつりでの様子▲

(3) 区内のスポーツ関係団体等の活動について

■スポーツ関係団体等へのヒアリング実施概要

調査対象	スポーツ推進に関連する活動・事業を行っている組織 12 団体
調査期間	令和6年10月16日～10月29日
調査方法	対面、オンラインまたは電話でのヒアリング

■ヒアリング調査項目

- ・ 団体、組織について
- ・ 他の団体等との連携・取り組み状況について
- ・ 団体におけるスポーツ振興に関する課題について
- ・ 区のスポーツ振興にとって重要なこと
(要望や施策に対する意見)

5. 区のスポーツを取り巻く課題と対応

区民アンケート等の基礎調査結果をもとに、今後のスポーツ施策の課題および対応について、以下のとおりまとめました。

スポーツの実施状況

- 成人の週1日以上スポーツ実施率は全体で52.0%となっており、国と同水準で東京都よりも低い傾向となっています。また、今後もスポーツ・運動を継続したい、またはきっかけがあれば始めたいと考えている人は約9割となっていることから、ライフスタイルや年齢等に関わらず、すべての区民がスポーツに親しむ環境の構築が必要です。
- この1年間にスポーツ・運動を全くしなかったと回答した人は全体の3割程度となっています。仕事が忙しくて時間がないといった回答が多かったことから、仕事や家事・育児で忙しい中でも、気軽に安心してスポーツに取り組める場や機会の提供が重要です。
- 70歳以上の週1日以上スポーツ実施率は6割台と高く、また、運動不足を感じる割合も若年層に比べて低くなっています。健康やいきがづくりなどの観点からも、高齢者向け事業の継続が必要です。
- スポーツ庁が実施した「令和5年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査」では、全国的に運動やスポーツをすることが好きなこどもは総運動時間が長く、体力合計点が高い傾向にあります。スポーツが好きだということこどもの意識を育むことで、体力の向上を目指すことが重要です。

パラスポーツ・障害者のスポーツ

- 障害者の週1日以上スポーツ実施率は48.8%となっています。障害者がスポーツに親しみ、楽しむことができる環境が必要です。
- 障害者がスポーツをしない理由として「自分に合ったスポーツや運動の情報がない」という回答が多いことから、スポーツや運動に関する情報発信の充実が必要です。
- パラスポーツに関心がない人が半数以上であることから、区民のパラスポーツに対する興味・関心を向上させるための取り組みが必要です。

スポーツ実施環境

- スポーツ・運動の実施場所は道路・共用スペースが多く挙げられており、またスポーツ・運動を始めるためのきっかけとして「気軽にスポーツ・運動ができる施設や環境」、今後推進すべき施策として「公共スポーツ施設の整備・充実」、「公園等の生活に身近な場のスポーツ・運動の環境整備」が挙げられています。公共の場で安全にスポーツをすることができる環境の充実が必要です。

スポーツ観戦

- スポーツを何かしらの形で観戦した割合は8割台となっています。引き続き、スポーツ観戦に対する区民の関心喚起を図る取組が必要です。

トップスポーツチーム

- 区内を拠点とするトップスポーツチームをいずれも「知らない」と回答する区民が7割以上と、認知度がやや低い状況となっています。ホームゲームへの区民招待や、区内小・中学校への出前講座など、区民がトップスポーツチームをより身近に感じることができるような取組が必要です。

情報発信

- 「こうとう区報」やインターネットを用いてスポーツ・運動に関する情報を入手する人が多いことから、紙面、WEB等を活用してより多くの区民に効果的に情報を提供していくことが重要です。

ボランティア

- 全体のうち3割の区民が、スポーツ・運動に関するボランティアに興味があると回答していますが、男女とも年齢が若いほどボランティアに興味がないと回答しています。気軽にボランティアに参加できるような仕組みづくりや、情報提供の充実、また興味・関心を向上させるための取組が必要です。

スポーツ・運動の指導者

- スポーツ・運動の楽しみ方を指導し、興味・関心を向上させるような指導者、健康・体力づくりの指導ができる指導者の育成が必要です。

第3章 具体的な施策展開

1. 基本理念

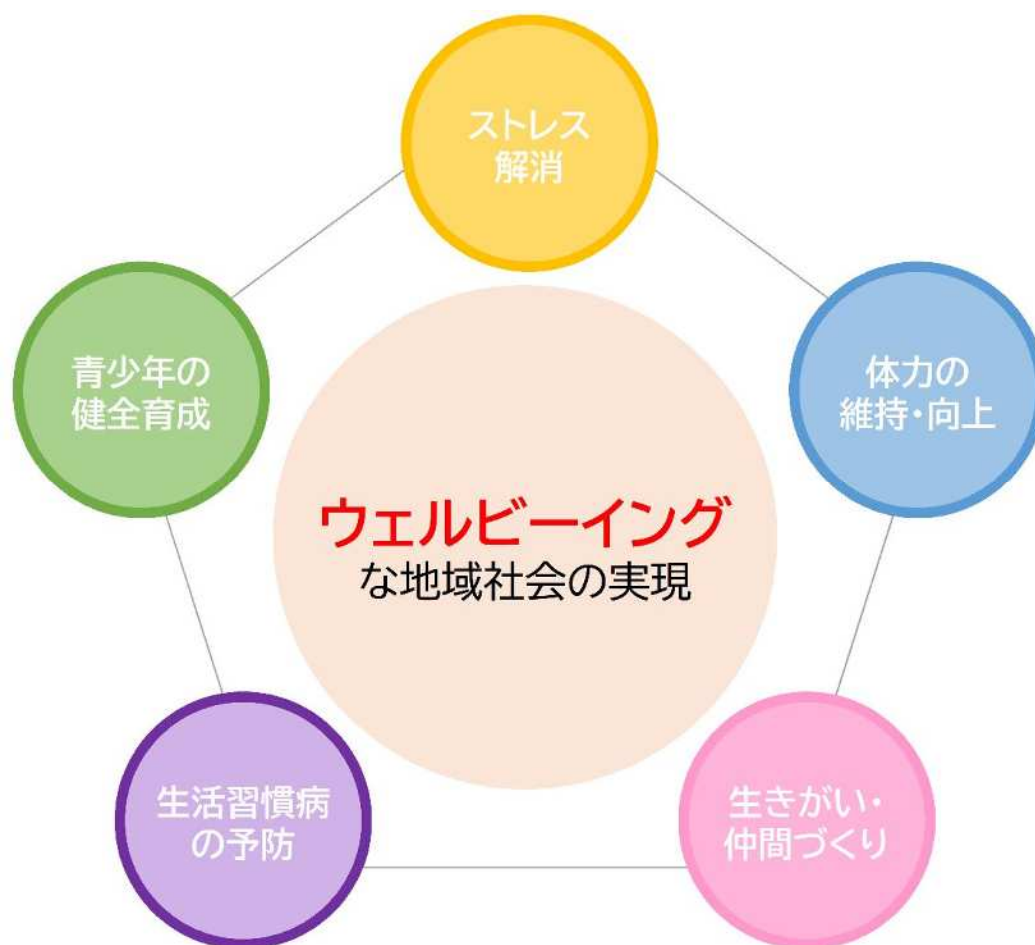
「スポーツが熱いまち 江東区」

～だれもがスポーツを楽しみ、スポーツの力でみんなの元気があふれるまち～

本区ではこれまで「スポーツが熱いまち 江東区」を基本理念に掲げ、区民の誰もが、いつでも、どこでも、いつまでも気軽に「する」、「みる」、「ささえる」スポーツに親しむことのできる環境整備に取り組んできました。

本計画においても、前計画の理念を継承しつつ、多様化するスポーツとの関わり方や、スポーツを通じた地域の活性化などの視点を盛り込んだ、「だれもがスポーツを楽しみ、スポーツの力でみんなの元気があふれるまち」を新たなキャッチフレーズとして決めました。

区民がそれぞれのライフスタイルに応じたスポーツ活動を楽しむことで、誰もが心身ともに豊かになれる、ウェルビーイングな地域社会の実現を目指します。



2. 基本目標

区を取り巻く課題を解決するとともに、基本理念の実現に向け、4つの基本目標を掲げ、本区のスポーツ推進を図ります。

基本目標1. スポーツをする機会の創出「する」

こどもから高齢者まで、多様なライフステージ・ライフスタイルに応じ、気軽にスポーツを楽しむことのできる機会を充実していきます。

また、障害のある方が気軽にスポーツに取り組める機会や、障害のある人となない人がスポーツを通じて交流できる機会を提供するとともに、地域社会全体におけるパラスポーツへの理解を促進していきます。

基本目標2. スポーツをする環境の充実「する」

区民が気軽にスポーツに親しむことができるよう、スポーツ施設の安定的な運営に取り組むとともに、生活に身近な場所でスポーツができる環境を充実していきます。

また、本区の特色である、水辺環境を生かしたスポーツを推進するとともに、東京2020大会のレガシー施設等との連携に取り組んでいきます。

基本目標3. スポーツをみる楽しさの発信「みる」

オリンピック・パラリンピックなどの国際大会等の機会をとらえて、スポーツに対する関心を喚起するとともに、スポーツをみる楽しさを広めていきます。

また、トップスポーツチーム連携団体との協働・連携を強化し、魅力的なスポーツ観戦の機会を提供していきます。

基本目標4. スポーツをささえる人材・団体の活躍推進「ささえる」

スポーツ推進委員やスポーツボランティア、スポーツ協会、地域スポーツクラブなど、地域でスポーツを「ささえる」人材・団体の活躍を推進していきます。

3. 数値目標

本計画では、今後展開するスポーツ施策の成果や進捗状況を客観的に評価するため、基本目標ごとに数値目標を以下のとおり設定します。

数値目標	現状値	目標値 (令和11年度)
基本目標1. スポーツをする機会の創出「する」		
週1回以上スポーツ・運動を行う区民の割合※ ¹	52%	
週1回以上スポーツ・運動を行う障害者の割合※ ²	48.8%	
基本目標2. スポーツをする環境の充実「する」		
区立スポーツ施設の利用者数※ ³	1,767,000人	
区立スポーツ施設の利用者満足度※ ⁴	90.9%	
基本目標3. スポーツをみる楽しさの発信「みる」		
トップスポーツチーム区民招待観戦者数※ ³	14,026人	
基本目標4. スポーツをささえる人材・団体の活躍推進「ささえる」		
スポーツボランティア登録者数※ ³	80人	
初級パラスポーツ指導員養成講習会 年間受講者数※ ³	14人	

※¹ 出典：区民アンケート（令和6年度） 住民基本台帳より無作為抽出した区民を対象に調査を実施

※² 出典：障害のある方のアンケート（令和6年度） 挙手制により調査を実施。区内障害者通所施設等で周知

※³ 出典：業務取得（令和5年度実績）

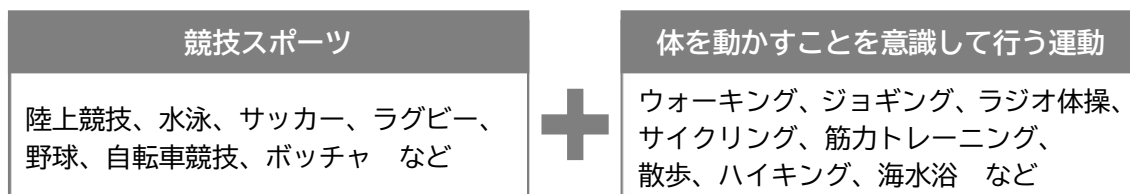
※⁴ 出典：利用者アンケート（令和5年度）

4. 本計画におけるスポーツの定義

スポーツ（sport）はラテン語の「deportare（気晴らしをする、楽しむ、遊ぶ）」が語源と言われています。我が国では、戦後、こどもの体力・運動能力向上という観点からスポーツが活用されるようになり、近年はスポーツの楽しさや喜びを味わってもらうことの重要性も認識されてきたところです。

本計画では、前計画と同様に、「スポーツ」とは、野球やサッカーなど一定のルールに基づいて勝敗や記録を競うスポーツや運動だけでなく、散歩や体操などの体を動かすことを意識して行う運動も「スポーツ」として広く捉えることとします。

■本計画で取り扱う「スポーツ」の範囲



5. 施策の体系

基本理念	基本目標		施策展開
スポーツが熱いまち 江東区	すね①	1. スポーツをする 機会の創出	(1) こどものスポーツ推進
			(2) 高齢者のスポーツ推進
			(3) パラスポーツの推進
			(4) 多様なスタイルに応じたスポーツ機会の提供
	すね②	2. スポーツをする 環境の充実	(1) 気軽にスポーツを楽しめる環境の充実
			(2) 水辺に親しむスポーツの振興
			(3) 東京 2020 大会レガシーの継承
	みる	3. スポーツをみる 楽しさの発信	(1) スポーツ観戦の魅力発信
			(2) トップスポーツチームとの連携強化
			(3) 多様な媒体を活用した情報発信・PR
	やっぴんる	4. スポーツをささえる 人材・団体の 活躍促進	(1) スポーツをささえる人材の育成・活躍推進
			(2) 地域スポーツ団体等との連携拡充
			(3) 競技力向上の支援

主な取組

・ファミリースポーツチャレンジ ・少年運動広場の提供	・こどもスポーツデー ・児童館・こどもプラザの運営	・小学生スーパードッジボール大会
・福祉会館・ふれあいセンター・グランチャ東雲の運営 ・転ばぬ先のトレーニング	・KOTO 活き粋体操 ・全国健康福祉祭（ねんりんピック）	・シニア体操教室
・ボッチャ交流大会 ・ユニバーサルカヌー体験会	・みんなでスポーツフェスタこうとう ・知的障害者のスポーツ活動の支援	・障害者に配慮した施設運営
・江東シーサイドマラソン大会 ・親子で楽しめるスポーツ教室	・スポーツ教室 ・こうとう健康チャレンジ	・江東スポーツデー
・区立スポーツ施設の管理・運営 ・中学校体育館の夜間開放	・区立スポーツ施設の改修 ・区立公園におけるスポーツ広場の提供	・学校施設の開放
・こどもカヌー大会 ・区立小中学校セーリング部	・インクルーシブ・セーリング体験会 若洲 ・豊川河川敷公園カヌー・カヤック場の運営	・区立中学校カヌー部 ・大学と連携したカヌー教室の実施
・こどもカヌー大会【再掲】 ・夢の島スケートボードパークの運営	・区民スポーツ大会（水泳） ・パラリンピック競技体験会	
・東京 2025 デフリンピックの周知・啓発、障害理解の促進 ・区内スポーツ施設を使用したスポーツイベントの周知	・国際大会等の周知・啓発	
・トップスポーツチームの試合観戦招待 ・トップスポーツチームとの多分野での連携	・トップスポーツチームによる地域貢献	
・こうとう区報・区 HP・区公式 SNS による情報発信 ・各スポーツ施設の公式 SNS を活用した情報提供の充実	・フィットこうとうによる情報発信 ・デジタルサイネージによる情報発信	・シティプロモーションの推進
・パラスポーツ指導員養成講習会 ・部活動指導員の活用	・スポーツボランティア制度の充実	・指導者養成講習会
・スポーツ推進委員会との連携 ・KOTO スポーツフィールド	・スポーツ協会との連携 ・部活動の地域移行	・地域スポーツクラブとの連携
・区民スポーツ大会の開催 ・パラリンピックカヌー選手の輩出	・東京都スポーツ大会への選手派遣 ・功労者の表彰	・ジュニアカヌー選手の育成 ・トップアスリートによる指導

基本目標 1. スポーツをする機会の創出

施策展開（1）こどものスポーツ推進

こどもがスポーツを経験することは、こども自身の健康な身体と豊かな心を育むことにつながります。

こどもを対象とした様々なスポーツイベントを開催するとともに、こどもたちが安心して楽しく運動できる機会を提供し、体力・運動能力の向上に取り組んでいきます。

主な取組	内 容	担 当
ファミリースポーツ チャレンジ	幼児～小・中学生とその保護者を対象に、競技体験やプロアスリートとの交流など、家族で楽しめる体験イベントを開催します。	スポーツ振興課
こどもスポーツ デー	区内在住の高校生以下を対象に、毎月第2・第4土曜日の午前中、各スポーツセンターの大・小体育室、プールを無料開放します。	スポーツ振興課 指定管理者
小学生スーパードッジボール大会	区立小学校の3～6年生を対象とした、スーパードッジボール大会を開催します。	指定管理者 スポーツ推進委員会
少年運動広場の提供	区内4か所にある少年運動広場（辰巳少年野球場、南砂少年野球場、亀戸運動場、千石運動場）を提供します。	スポーツ振興課
児童館・こどもプラザの運営	各児童館およびこどもプラザにおいて、スポーツ（体力増進）やレクリエーション活動等のプログラムを実施します。	こども家庭支援課 養育支援課

CLOSE UP

重点事業を掲載予定

施策展開（２）高齢者のスポーツ推進

高齢者におけるスポーツは、健康増進や生きがい・仲間づくりなどの様々な効用をもたらす重要な役割を果たします。

高齢者向けの各種スポーツ教室やイベントの実施等を通じて、気軽にスポーツに親しむことができる機会の充実を図っていきます。

主な取組	内 容	担 当
福祉会館・ふれあいセンター・グランチャ東雲の運営	各福祉会館やふれあいセンター、グランチャ東雲において、健康体操等を実施することで、高齢者の健康増進を図ります。	長寿応援課
KOTO 活き粋体操	高齢者のストレッチ、筋力及びバランス機能の維持・向上ができる、江東区独自の介護予防体操を実施します。	地域ケア推進課
シニア体操教室	各スポーツセンターにおいて、ストレッチや全身を使ったりズム体操で体力維持や体の調整を行う体操教室を実施します。	スポーツ振興課 指定管理者
転ばぬ先のトレーニング	各スポーツセンターにおいて、転倒防止や寝たきり予防を目的としたエクササイズ教室を実施します。	スポーツ振興課 指定管理者
全国健康福祉祭（ねんりんピック）	令和 10 年度に東京都で開催予定の「全国健康福祉祭（ねんりんピック）」について、都と連携し、大会に協力します。	スポーツ振興課

CLOSE UP

重点事業を掲載予定

施策展開（３）パラスポーツの推進

ボッチャをはじめとした各種パラスポーツ競技の体験などを通じて、パラスポーツに親しむ機会を拡充しながら障害に対する理解の醸成を図ります。

また、障害者に配慮した施設運営に取り組むことで、障害者の運動機会の創出を図っていきます。

主な取組	内 容	担 当
ボッチャ交流大会	パラスポーツの普及振興を目的とした、年齢や性別、障害の有無に関わらず参加できる、ボッチャ交流大会を開催します。	スポーツ振興課 指定管理者
みんなでスポーツ フェスタこうとう	パラ・デフスポーツ競技体験ブースおよびパラ・デフアスリートとの交流など、誰もが楽しめるスポーツイベントを開催します。	スポーツ振興課 指定管理者
障害者に配慮した 施設運営	障害者が気軽にスポーツを楽しめる環境を提供するため、障害者専用の練習時間や車いす対応のマシン等を設置します。	スポーツ振興課 指定管理者
ユニバーサル カヌー体験会	障害の有無に関わらず、気軽にカヌーに親しむことのできる機会を提供するため、越中島プールにてカヌー体験会を開催します。	スポーツ振興課 指定管理者
知的障害者の スポーツ活動の 支援	軽度知的障害者を対象としたエンジョイ・クラブの余暇活動の１つとして、バスケットボール等のスポーツ活動を支援します。	障害者施策課

CLOSE UP

重点事業を掲載予定

施策展開（４）多様なスタイルに応じたスポーツ機会の提供

競技志向の方からライト層までの幅広いニーズや、多様なライフスタイルに応じた、区民の誰もが気軽にスポーツを楽しむことができる機会を創出していきます。

主な取組	内 容	担 当
江東シーサイド マラソン大会	夢の島競技場をスタート・フィニッシュとした、日本陸連公認の江東シーサイドマラソン大会を開催します。	スポーツ振興課
スポーツ教室	各スポーツセンターおよび屋外スポーツ施設において、多様なレベルに応じたスポーツ教室を実施します。	スポーツ振興課 指定管理者
江東スポーツデー	区内在住・在勤・在学者を対象に、毎月第２土曜日に各スポーツセンター（プールを除く）を無料開放します。	スポーツ振興課 指定管理者
親子で楽しめる スポーツ教室	各スポーツセンターおよび屋外スポーツ施設において、親子向けのプログラムや保護者向けのセミナー等を開催します。	スポーツ振興課 指定管理者
こうとう健康 チャレンジ	日々のウォーキングや健診受診、スポーツセンターの利用等をポイント化し、抽選で景品を付与するイベントを実施します。	健康推進課

CLOSE UP

重点事業を掲載予定

基本目標２．スポーツをする環境の充実

施策展開（１）気軽にスポーツを楽しめる環境の充実

誰もがいつでも気軽にスポーツに取り組むことができるよう、スポーツ施設の安定的な運営を行うとともに、公園や学校施設など、より身近な場所でスポーツに親しむことのできる機会の充実を図っていきます。

主な取組	内 容	担 当
区立スポーツ施設の管理・運営	区立スポーツ施設で、多様なニーズに合ったプログラムを実施するなど、区民が気軽にスポーツに楽しめる環境の充実を図ります。	スポーツ振興課 指定管理者
区立スポーツ施設の改修	安全・安心に施設を利用できるよう、江東区長期計画に基づき、施設のバリアフリー化や老朽化改善のための改修を実施します。	スポーツ振興課
学校施設の開放	区民に身近なスポーツ施設として、区立小・中学校の校庭・体育館、豊洲西小学校のプール・トレーニング室を地域へ開放します。	学務課
中学校体育館の夜間開放	区民が身近に利用できるスポーツ施設として、毎週金曜日の夜間に区立中学校６校の体育館を開放します。	スポーツ振興課
区立公園におけるスポーツ広場の提供	横十間川親水公園の水上アスレチック場や、豎川河川敷公園にあるカヌー・カヤック場など、スポーツに親しめる場を提供します。	施設保全課

CLOSE UP

重点事業を掲載予定

施策展開（２）水辺に親しむスポーツの振興

河川や運河など、“水彩都市・江東”として豊かな水辺環境を生かしたスポーツを推進していきます。

また、東京 2020 大会の競技施設をレガシーとして活用し、水辺のスポーツの普及振興に取り組んでいきます。

主な取組	内 容	担 当
こどもカヌー大会	東京 2020 大会の競技会場となった海の森水上競技場にて、小学 4 ～ 6 年生を対象としたカヌー大会を開催します。	スポーツ振興課
インクルーシブ・セーリング体験会 若洲	若洲ヨット訓練所で障害の有無に関わらずセーリングに挑戦できる、インクルーシブ・セーリング体験会を実施します。	スポーツ振興課
区立中学校 カヌー部	内部河川が多い区の地域特性を生かし、区立中学校カヌー部を拠点校方式により実施します。	教育支援課
区立小中学校 セーリング部	水辺に面した区の地域特性を生かし、区立小中学校セーリング部を拠点校方式により実施します。	教育支援課
豎川河川敷公園 カヌー・カヤック場の運営	豎川河川敷公園のカヌー・カヤック場の運営および維持管理を実施します。	施設保全課
大学と連携した カヌー教室の実施	東京海洋大学と連携し、内部河川のカヌーツーリングや区の文化・歴史などを学ぶ「カヌー教室」を開催します。	スポーツ振興課 指定管理者

CLOSE UP

重点事業を掲載予定

施策展開（３）東京 2020 大会レガシーの継承

東京 2020 大会後のレガシー継承の取組として、スポーツに対する関心や気運の高まりを一過性で終わらせないため、競技会場となった施設でのイベント実施や競技体験の機会を提供していきます。

主な取組	内 容	担 当
こどもカヌー大会 【再掲】	東京 2020 大会の競技会場となった海の森水上競技場にて、小学４～６年生を対象としたカヌー大会を開催します。	スポーツ振興課
区民スポーツ大会 （水泳）	東京 2020 大会の競技会場となった東京アクアティクスセンターにて、区民スポーツ大会（水泳）を開催します。	スポーツ振興課
夢の島スケート ボードパーク の運営	東京 2020 大会での堀米雄斗選手の活躍を受け整備した夢の島スケートボードパークにて、体験会やイベントを実施します。	スポーツ振興課 指定管理者
パラリンピック 競技体験会	東京 2020 大会を契機に高まったパラスポーツへの興味・関心を継続させるため、各スポーツセンターで競技体験会を実施します。	スポーツ振興課 指定管理者

CLOSE UP

重点事業を掲載予定

基本目標３．スポーツをみる楽しさの発信

施策展開（１）スポーツ観戦の魅力発信

スポーツをみることは、極限を追求するアスリートの姿に感動し、スポーツへの憧れを抱き、スポーツへの関心度を向上させるだけでなく、ストレス発散や、観戦者同士の一体感・連帯感の醸成にもつながっていきます。

大規模な国際大会の周知・啓発や区内施設を使用したスポーツイベントへの観戦招待を行うことで、スポーツ観戦の機会を提供していきます。

主な取組	内 容	担 当
東京 2025 デフリンピックの周知・啓発、障害理解の促進	初めて日本で開催される「東京 2025 デフリンピック大会」を契機に、デフリンピックの周知啓発及び障害への理解促進を図ります。	スポーツ振興課 障害者施策課
国際大会等の周知・啓発	国際大会（オリパラ/世界陸上/アジア大会）等の情報を積極的に周知・啓発し、スポーツ観戦への区民の関心喚起を図ります。	スポーツ振興課
区内スポーツ施設を使用したスポーツイベントの周知	国際大会等、区内スポーツ施設を使用したスポーツイベントへ区民観戦招待を行うなど、スポーツ観戦の魅力発信に取り組みます。	スポーツ振興課

CLOSE UP

重点事業を掲載予定

施策展開（２）トップスポーツチームとの連携強化

スポーツの裾野を広げ、競技人口の拡大や観戦文化の定着を図るために、区民がトップスポーツを見ることを積極的に推進するとともに、まちの魅力向上や活性化といった地域づくりにつなげていきます。

主な取組	内 容	担 当
トップスポーツチームの試合観戦招待	トップスポーツチームの公式試合への区民招待を実施することで、区民がトップレベルのスポーツに触れる機会を提供します。	スポーツ振興課
トップスポーツチームによる地域貢献	区イベントへの協力や小・中学校への出前講座等を通じ、区民との交流を図ることで、スポーツの魅力を実感する機会を提供します。	スポーツ振興課 ほか
トップスポーツチームとの多分野での連携	トップスポーツチームと連携・協働し、スポーツ振興だけでなく、地域活性化等につながる様々な取組を広げていきます。	スポーツ振興課 ほか

CLOSE UP

重点事業を掲載予定

施策展開（３）多様な媒体を活用した情報発信・PR

多くの区民がスポーツに関心を持ち、「する」「みる」「ささえる」活動に主体的に参加できるよう、区報や区公式 SNS などの多様な媒体・手段を用いてスポーツに関する情報を提供していきます。

主な取組	内 容	担 当
こうとう区報・ 区 HP・区公式 SNS による情報発信	「こうとう区報」や区公式 HP・SNS を活用し、各種スポーツイベント等のスポーツ・運動に関する情報発信を積極的に実施します。	スポーツ振興課 広報広聴課
フィットこうとう による情報発信	「フィットこうとう」を活用し、スポーツや健康づくりに関する情報発信を積極的に実施します。	スポーツ振興課 指定管理者
各スポーツ施設の 公式 SNS を活用した 情報提供の充実	公式ホームページのほか、X（旧 Twitter）、Instagram 等の各施設公式 SNS を活用し、スポーツに関する情報提供の充実を図ります。	スポーツ振興課 指定管理者
デジタルサイネージ による情報発信	各スポーツ施設に設置しているデジタルサイネージにおいて、各種スポーツイベントの情報発信を積極的に実施します。	スポーツ振興課 指定管理者
シティプロモーション の推進	区のスポーツの特色や魅力をふるさと納税の返礼品等に活用することで、シティプロモーションを推進します。	広報広聴課

CLOSE UP

重点事業を掲載予定

基本目標4. スポーツをささえる人材・団体の活躍促進

施策展開（1）スポーツをささえる人材の育成・活躍推進

身近な地域でいつでもスポーツができる環境をつくるためには、スポーツ施策を地域で展開していく人や指導者など、スポーツを支える人材が重要な役割を担っています。

スポーツの様々な場面を支える人材を育成し、受け皿となる組織の体制強化に取り組んでいきます。

主な取組	内 容	担 当
パラスポーツ 指導員養成講習会	パラスポーツ指導員資格取得を計画的に進めることで、パラスポーツを支える人材の育成・確保に取り組みます。	スポーツ振興課 指定管理者
スポーツ ボランティア制度 の充実	各種スポーツイベントにおいて、ボランティアの活躍機会を提供することで、スポーツを支える人材の育成及び活躍を推進します。	スポーツ振興課 指定管理者
指導者養成講習会	各スポーツセンターで、ボッチャ指導員や水上安全法救助員の講習会を行う等、指導者に必要な知識・技術の習得を図ります。	スポーツ振興課 指定管理者
部活動指導員の 活用	生徒が専門的な指導を受けられるよう、中学校及び義務教育学校後期課程に部活動指導員を配置します。	教育支援課

CLOSE UP

重点事業を掲載予定

施策展開（２）地域スポーツ団体等との連携拡充

区全体のスポーツ推進を図るためには、地域で活動する団体との連携が欠かせません。スポーツ推進委員会やスポーツ協会をはじめ、地域スポーツクラブ等との連携を強化・拡充していきます。

主な取組	内 容	担 当
スポーツ推進委員会との連携	スポーツに関するイベントを実施するとともに、地域のスポーツ推進を担う人材として、円滑に活動できるよう支援します。	スポーツ振興課 スポーツ推進委員会
スポーツ協会との連携	多世代がスポーツに親しむことのできる環境づくりに取り組むスポーツ協会と連携し、地域のスポーツ振興活動を促進します。	スポーツ振興課
地域スポーツクラブとの連携	区内で活動する地域スポーツクラブ団体と連携し、多世代を対象とした、多様なスポーツに触れる体験会を実施します。	スポーツ振興課
KOTO スポーツフィールド	江東区民まつり中央まつりにおいて、指定管理者やスポーツ推進委員会、トップスポーツチームと連携し、イベントを開催します。	スポーツ振興課 指定管理者 スポーツ推進委員会
部活動の地域移行	地域のスポーツ団体や指導者等と学校が連携・協働し、部活動を段階的に地域へ移行します。	教育支援課

CLOSE UP

重点事業を掲載予定

施策展開（３）競技力向上の支援

競技としてのスポーツを振興するため、区民スポーツ大会を開催するとともに、選手の育成や大会への出場等を支援します。

また、スポーツ振興に貢献した区民の表彰や、トップアスリートによる指導を行い、競技力の向上を図っていきます。

主な取組	内 容	担 当
区民スポーツ大会の開催	区民スポーツの振興を目的とした、区民スポーツ大会を開催することで、競技力の向上と区民の健康な体力づくりを促進します。	スポーツ振興課
東京都スポーツ大会への選手派遣	東京都スポーツ大会（夏季・冬季・春季）へ江東区代表選手の派遣を実施します。	スポーツ振興課
ジュニアカヌー選手の育成	区立中学校カヌー部卒業後、国民スポーツ大会・インターハイを目指す生徒に指導委託を実施し、技術力・競技力の向上を図ります。	スポーツ振興課
パラリンピックカヌー選手の輩出	江東区カヌー協会等と連携し、専門コーチによる指導を行うことで、江東区出身のパラリンピックカヌー選手の輩出を目指します。	スポーツ振興課
功労者の表彰	スポーツに関する活動を通じ、区のスポーツ振興及び発展に貢献した方を功労者として表彰します。	スポーツ振興課
トップアスリートによる指導	スポーツクリニックやオリンピックによる競技教室等、トップアスリートから直接指導を受けることで、競技力の向上を図ります。	スポーツ振興課 指定管理者

CLOSE UP

重点事業を掲載予定

第4章 計画の推進にあたって

1. 計画の進行管理

「江東区スポーツ推進計画」を着実に推進するため、計画に掲げた施策の進捗状況、成果、課題等を検討するとともに、今後のスポーツ振興に関する意見交換を行う場として「江東区スポーツ推進連絡会」を設置しています。

2. 計画の推進体制

本計画に定める基本理念を区やスポーツ協会、スポーツ推進委員会などスポーツを支える主体が共有し、相互に役割分担と連携を図りつつ、効率的で効果的な事業展開を図る必要があります。本計画の推進に向けた各主体の役割について、以下のとおり整理しています。

推進体制イメージ図

(1) 区民

年齢や性別、障害の有無に関わらず、健康増進や体力向上に関心を持ち、日常の健康づくりから競技スポーツとしての活動まで、様々なレベルでスポーツを「する」、楽しさを求めてスポーツを「みる」、ボランティア等の活動を通じてスポーツを「ささえる」ことなど、多様な形でスポーツに主体的に親しむことが期待されます。また、スポーツを通して世代や地域、国籍を越えて交流していくことが期待されます。

(2) 江東区

区は本計画に掲げる実施施策の進捗管理を行い、関係団体等との連絡調整や、地域でスポーツを支える人材・団体の活躍促進を図ります。また、スポーツセンターをはじめとした、区内のスポーツ施設の整備を行います。

(3) 指定管理者（スポーツ施設）

区民の誰もが安全で快適に施設を利用できるよう、区立スポーツ施設の管理・運営を行います。また、多様なニーズに沿った事業展開や、区・関係団体と連携を図ることで、区民のスポーツへの関心喚起を図ります。

(4) 公益財団法人江東区健康スポーツ公社

江東区における生涯スポーツの中核を担う団体として、区民の健康と生きがいをつくる、地域に根ざした事業展開を図ります。また、スポーツ行政の一翼を担う団体として、区とともに区民スポーツ普及振興事業を担います。

(5) 江東区スポーツ協会

江東区におけるスポーツ並びにレクリエーション活動の振興を図り、区民の体力の向上やスポーツ人口の拡大に寄与する取組みを行います。

(6) 江東区スポーツ推進委員会

行政と地域を結ぶスポーツのコーディネーターとして、区民まつりやファミリースポーツチャレンジ等の行事や委員会独自の事業において、区や健康スポーツ公社等と連携し、区民へのスポーツの指導・普及を行います。

(7) 地域スポーツクラブ

地域に密着したスポーツクラブとして、年齢や性別、障害の有無に関わらず区民の誰もがいつでも、どこでも気軽に参加できるスポーツの機会を提供するとともに、スポーツを通じて地域の連帯感を醸成します。

(8) トップスポーツチーム、トップアスリート

「みる」スポーツ、「ささえる」スポーツ人口の拡大、まちの魅力向上や活性化とともに、地域と連携した社会貢献活動等が期待されます。また、チーム・選手が活躍することで、区民に夢や感動を与え、まち全体のスポーツ気運の醸成につなげていくことが期待されます。

第5章 参考資料

1. スポーツ推進に関する各種調査結果

江東区におけるスポーツ推進の現状と課題を把握することを目的として、アンケート調査を実施しました。

(1) 区民アンケート

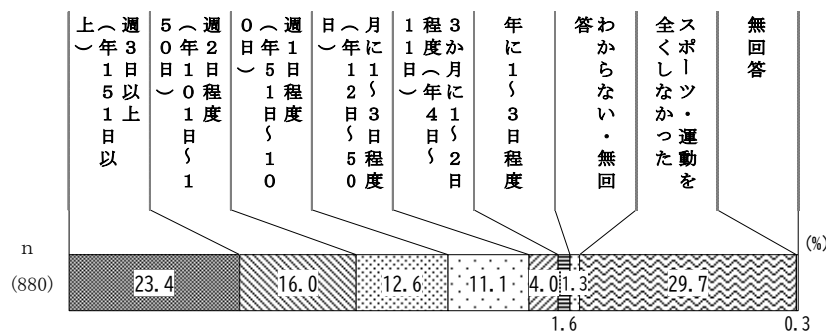
①スポーツの実施状況について

成人の週1日以上スポーツ実施率は52.0%となっています。令和元年度の調査では43.5%であり、8.5ポイント増加しました。一方で、「スポーツ・運動を全くしなかった」は全体の約3割となっています。

性・年齢別に週1日以上スポーツ実施率をみると、男女とも全体では5割を超えており、男性10～20歳代、70～79歳、女性70歳以上で6割を超えています。

一方、男女とも30～40歳代でスポーツ実施率が低く、特に女性30歳代では3割未満となっています。

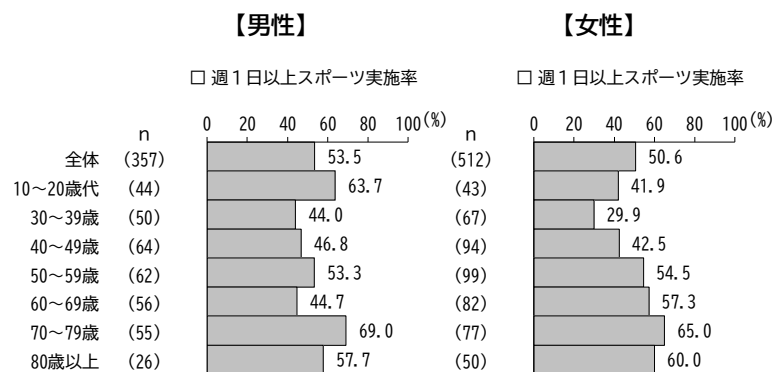
スポーツ・運動の実施頻度



参考

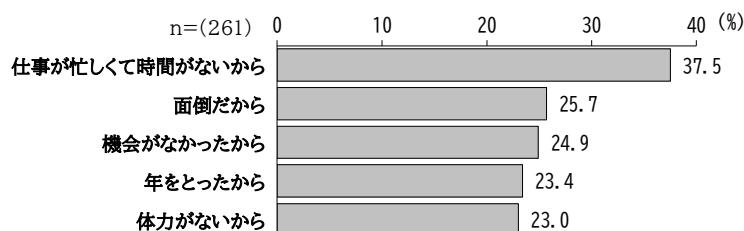
国 : 52.0% ※20歳以上 (スポーツ庁「令和5年度 スポーツの実施状況等に関する世論調査」)
東京都 : 66.3% ※18歳以上 (東京都「令和5年度 都民のスポーツ活動に関する実態調査」)

スポーツ・運動の実施頻度(性・年齢別)



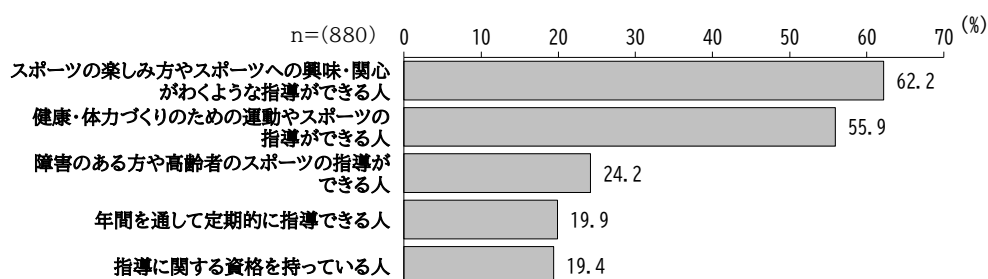
スポーツ・運動をしなかった理由は、「仕事が忙しくて時間がないから」が37.5%と最も多く、次いで「面倒だから」が25.7%、「機会がなかったから」が24.9%となっています。

スポーツ・運動をしなかった理由(上位5項目)



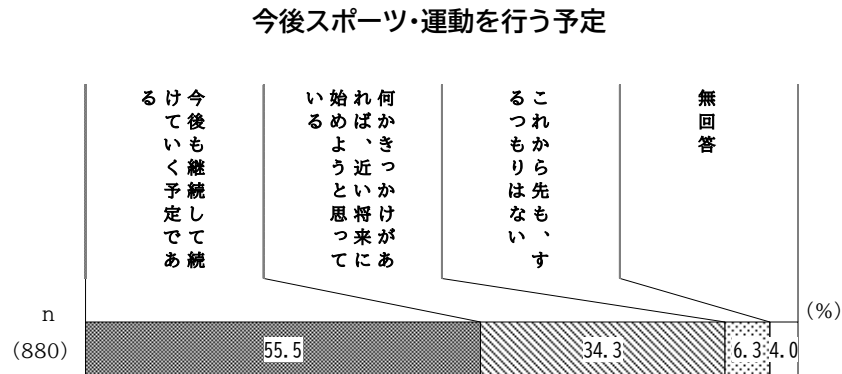
スポーツ・運動をするにあたって必要な指導者は、「スポーツの楽しみ方やスポーツへの興味・関心がわくような指導ができる人」が62.2%と最も多く、次いで「健康・体力づくりのための運動やスポーツの指導ができる人」が55.9%、「障害のある方や高齢者のスポーツの指導ができる人」が24.2%となっています。

スポーツ指導者として必要な人(上位5項目)

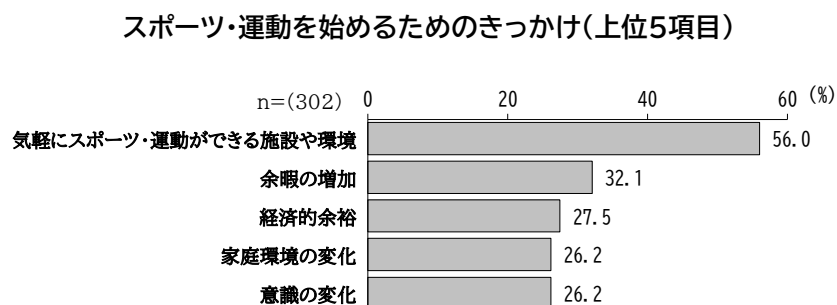


②今後のスポーツ・運動の実施意向について

「今後も継続して続けていく予定である」が 55.5%と最も多く、次いで「何かきっかけがあれば、近い将来に始めようと思っている」が 34.3%で、実施意向のある人は約9割となっています。

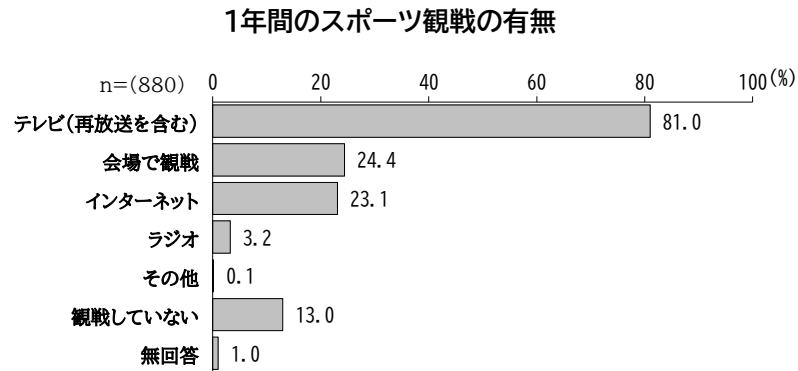


「何かきっかけがあれば、近い将来に始めようと思っている」と回答した人に、どのようなきっかけがあればスポーツ・運動を始めようと思うか聞いたところ、「気軽にスポーツ・運動ができる施設や環境」が 56.0%と最も多く、次いで「余暇の増加」が 32.1%、「経済的余裕」が 27.5%となっています。



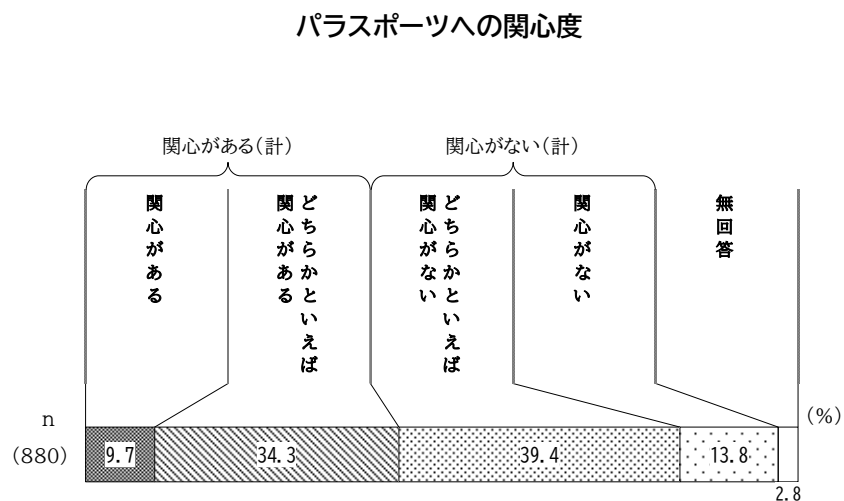
③スポーツの観戦状況について

この1年間で、何かしらの形でスポーツを「みた」と回答した割合は86.0%となっています。そのうち、「テレビ（再放送を含む）」が81.0%と最も多く、次いで「会場で観戦」が24.4%となっています。



④パラスポーツについて

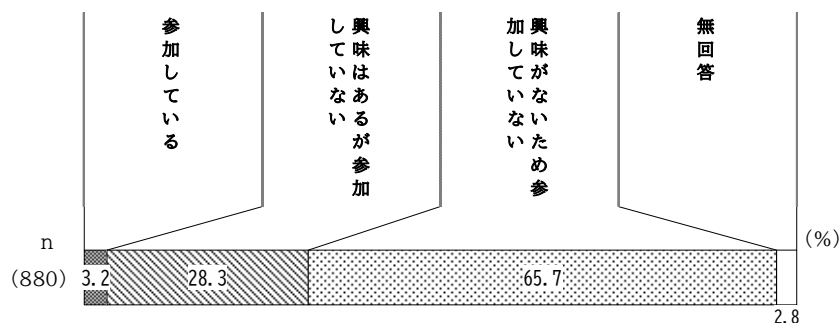
パラスポーツに関心がない（「関心がない」もしくは「どちらかといえば関心がない」）と回答した割合は53.2%となっています。



⑤ ボランティアについて

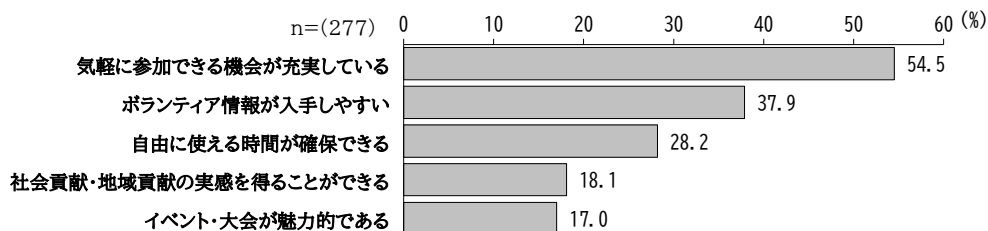
スポーツ・運動に関するボランティアに関心がある（「参加している」もしくは「興味はあるが参加していない」）と回答した割合は31.5%となっています。

スポーツ・運動に関するボランティアの参加状況



ボランティアに関心があると回答した人に、ボランティアをするために重要なことを聞いたところ、「気軽に参加できる機会が充実している」が54.5%と最も多く、次いで「ボランティア情報が入手しやすい」が37.9%となっています。

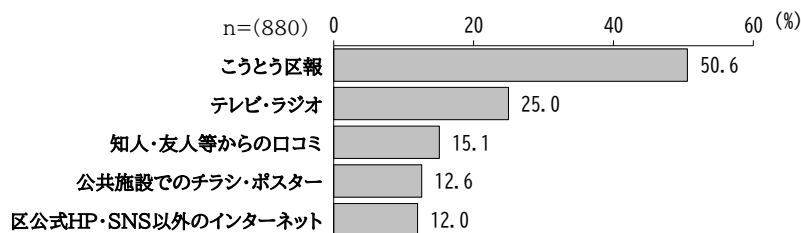
スポーツ・運動に関するボランティアをするために重要なこと(上位5項目)



⑥ スポーツ・運動に関する情報について

スポーツ・運動に関する情報の入手方法は「こうとう区報」が50.6%と最も多く、次いで「テレビ・ラジオ」が25.0%となっています。

スポーツ・運動に関する情報を入手している方法(上位5項目)

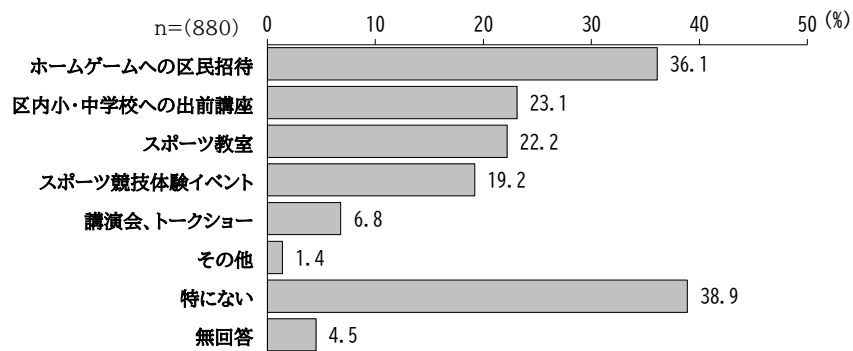


⑦トップスポーツチーム連携協定団体について

トップスポーツチームの認知度について、いずれかのチームを「知っている」と回答した割合は26.3%となっています。

また、トップスポーツチームに期待することとして、「ホームゲームへの区民招待」が36.1%、「区内小・中学校への出前講座」が23.1%となっています。一方、「特にない」が38.9%と多くなっています。

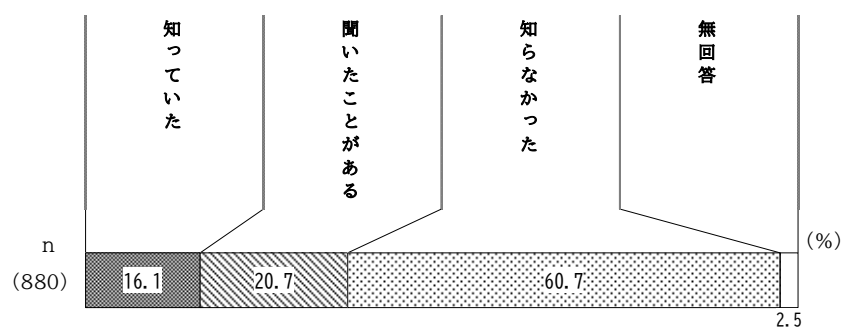
トップスポーツチームに期待すること



⑧学校部活動の地域移行について

学校部活動の地域移行への取組みを「知っていた」もしくは「聞いたことがある」と回答した割合は36.8%となっています。

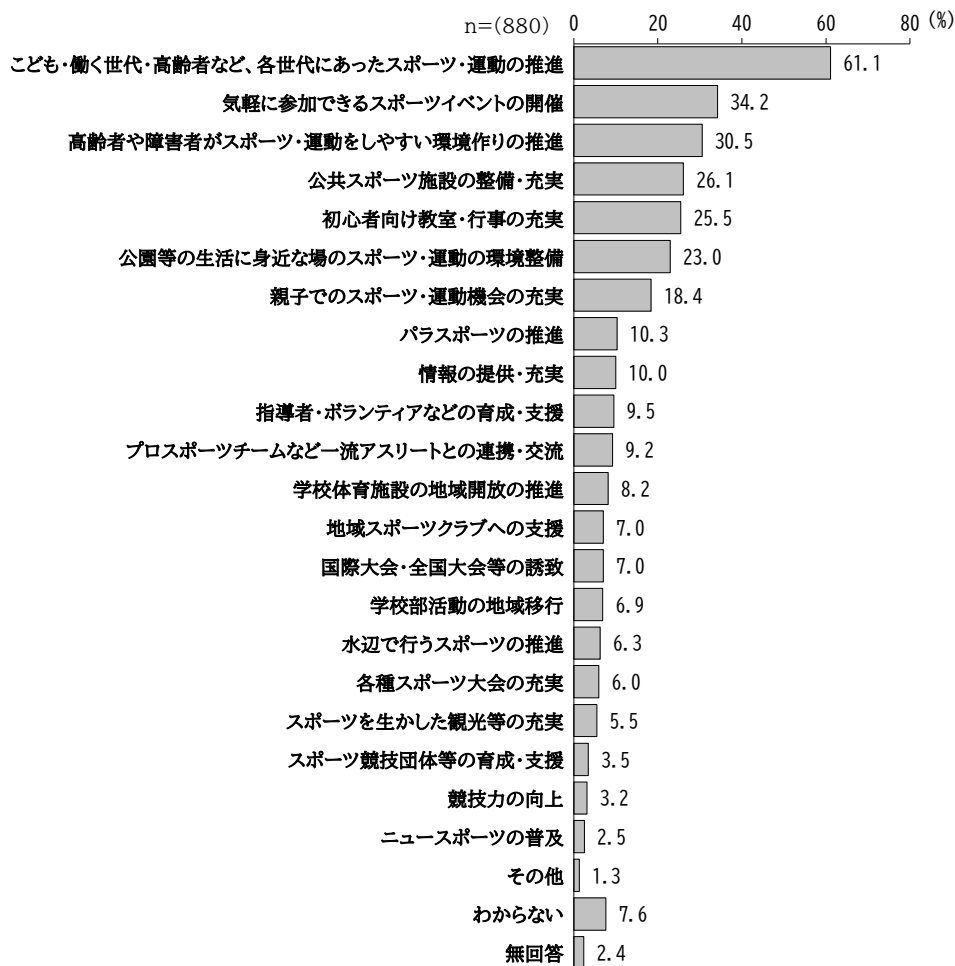
学校部活動の地域移行への取組みの認知度



⑨今後のスポーツ振興・推進について

「こども・働く世代・高齢者など、各世代にあったスポーツ・運動の推進」が61.1%と最も多く、次いで「気軽に参加できるスポーツイベントの開催」が34.2%、「高齢者や障害者がスポーツ・運動をしやすい環境作りの推進」が30.5%となっています。

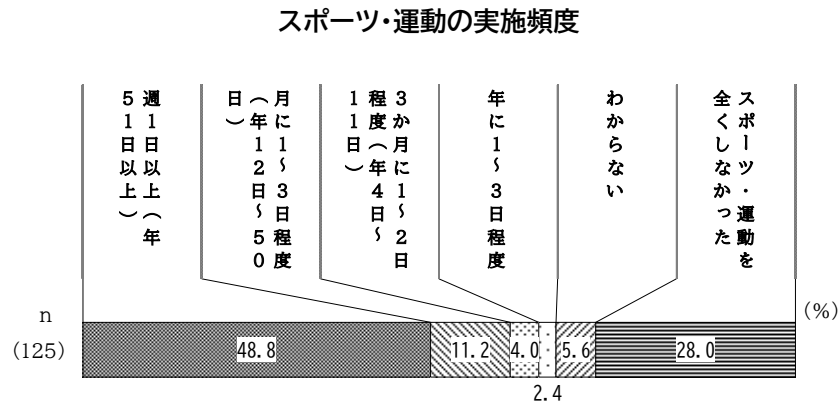
今後のスポーツ振興・推進について推進すべき施策



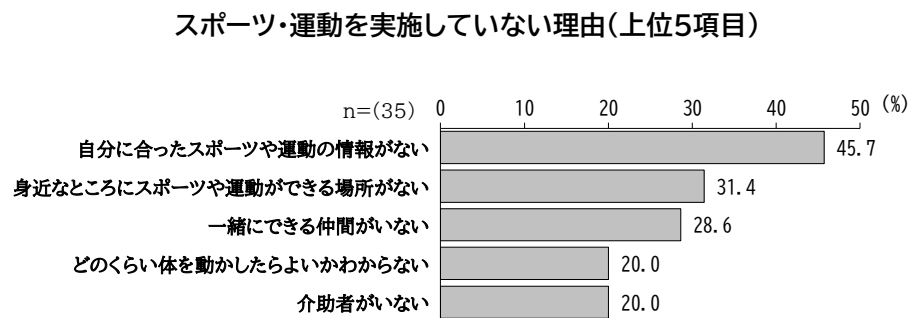
(2) 障害のある方のアンケート

①障害のある方のスポーツの実施状況について

障害者の週1日以上スポーツ実施率は48.8%となっています。一方、「スポーツ・運動を全くしなかった」は28.0%となっています。



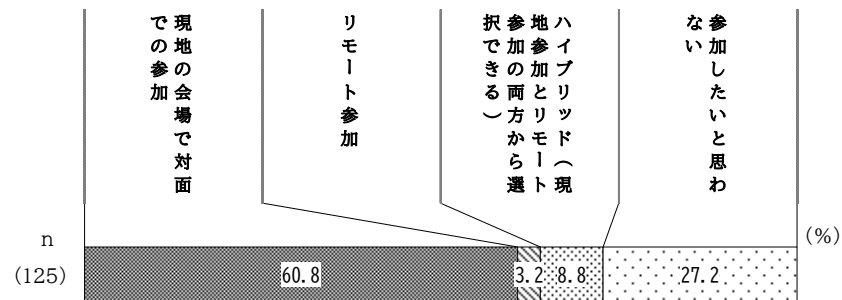
スポーツ・運動を実施していない理由は、「自分に合ったスポーツや運動の情報がない」が45.7%と最も多く、次いで「身近なところにスポーツや運動ができる場所がない」が31.4%、「一緒にできる仲間がいない」が28.6%となっています。



②障害のある方の今後やりたいスポーツ・運動について

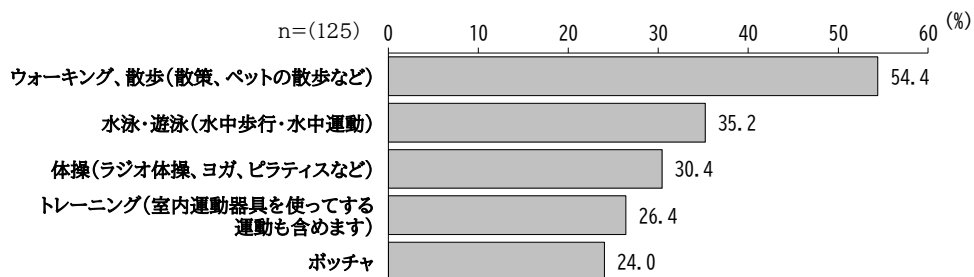
今後、スポーツ・運動に現地参加やリモート参加など、何かしらの方法で参加したいと考えている障害者の割合は 72.8%となっています。

スポーツ・運動の参加方法



今後やってみたいスポーツ・運動は、「ウォーキング、散歩（散策、ペットの散歩など）」が 54.4%と最も多く、次いで「水泳・遊泳（水中歩行・水中運動）」が 35.2%、「体操（ラジオ体操、ヨガ、ピラティスなど）」が 30.4%となっています。

やってみたいスポーツ・運動(上位5項目)



スポーツ・運動を実施するために必要なことは、「障害にあわせた教室やプログラム」が56.8%と最も多く、次いで「適切な指導者やコーチ、トレーナー」が44.0%、「一緒に行う仲間」が42.4%となっています。

スポーツ・運動に必要なこと

